

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	尾道市立大学
設置者名	公立大学法人尾道市立大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
経済情報学部	経済情報学科	夜・通信	34	0	26	60	13	
芸術文化学部	日本文学科	夜・通信		4	6	44	13	
	美術学科	夜・通信			92	130	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142274/Lecture_business_experience_2023.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142274/Lecture_business_experience_2023.pdf</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	尾道市立大学
設置者名	公立大学法人尾道市立大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.onomichi-u.ac.jp/houjinjyoho/houjin\\_soshiki/rijikai.html](https://www.onomichi-u.ac.jp/houjinjyoho/houjin_soshiki/rijikai.html)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	アンデックス株式会社 代表取締役	2年	経営
非常勤	広島大学名誉教授	2年	教育研究
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	尾道市立大学
設置者名	公立大学法人尾道市立大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。													
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)													
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年10月頃：学内の教務担当の委員会で次年度のシラバスに関する方針を検討、決定する。</li> <li>・前年11月～1月頃：授業担当教員にシラバスの作成を依頼、作成する。</li> <li>・1月～3月上旬：シラバスの内容をカリキュラムマップを活用して、学科・課程、並びに教務委員会等で確認し、必要に応じて修正する。</li> <li>・3月下旬頃：学内、学外にシラバスを公開する。</li> </ul>													
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_lesson/index.html">https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_lesson/index.html</a>												
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。													
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)													
シラバスの「成績評価の方法と基準」において、あらかじめ学生に授業科目の客観的な評価基準を示している。授業担当教員は「成績評価の方法と基準」に基づき、厳格かつ適正に単位の授与を行っている。													
なお、単位の授与について疑義のある学生には「成績不服申し立て制度」により自己の意見を述べる機会を与え、単位授与の質向上を目指している。													
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。													
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)													
各学生の履修科目の平均成績を客観的に示すために、GPAによる成績評価を行っている。10段階評価とGPAの成績点との対応や算出方法は次のとおりです。													
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>10段階評価</td> <td>10、9</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5以下及び履修したが受験しない場合</td> </tr> <tr> <td>GPA成績点</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </table>		10段階評価	10、9	8	7	6	5以下及び履修したが受験しない場合	GPA成績点	4	3	2	1	0
10段階評価	10、9	8	7	6	5以下及び履修したが受験しない場合								
GPA成績点	4	3	2	1	0								
GPA=(単位数×GPA成績点)の合計÷単位数合計													
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_valuation.html">https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_valuation.html</a>												
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。													

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

**【全学共通】**

各学部・学科の教育理念・目的に沿って設定された専門教育科目と全学の学生が身につけるべき素養を育むための教養教育科目を履修し、厳格な成績評価を経て所定の単位数を修得した人について卒業の認定を行い、学士の学位を授与します。

達成すべき学修成果は以下の通りです。

(知識・技能)

DP1; 幅広い教養と専門的知識・技能を修得し、それらを総合的に活用することができる。

(思考力・判断力・表現力)

DP2; 専門的知識・技能を活用した思考を通して、課題の発見や解決、表現の探究に取り組むことができる。

(主体性)

DP3; 豊かな人間性と幅広い視野をもち、主体的に問題解決や社会における実践に取り組むことができる。

**【経済情報学部経済情報学科】**

経済情報学部では、以下の諸能力を身につけた人の卒業を認定し、「学士(経済情報)」を授与します。

共 DP1; 専門的知識・技能と、日本語および外国語によるコミュニケーション能力とを高めることで、日本や世界の諸問題の解決に寄与することができる。

共 DP2; 経済・経営・情報の3分野に関する専門的知見を、人間・社会・自然に関する他分野の学問的知見と組み合わせることで、高度に情報化した現代経済社会の意味を探究することができる。

共 DP3; 経済・経営・情報の3分野に関する専門的知識および基礎的技能を修得し、それらを活用して現代の経済社会を多面的に理解し、家庭・企業・地域等で活躍することができる。

共 DP4; 尾道市立大学での「知と美」の学びを中心とした出会いを基礎に、人生の課題の発見・解決のため、生涯学び続けることができる。

(経済コース)経済コースでは、以下の諸能力を身につけた人の卒業を認定します。

経 DP1; 全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学修力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている。

経 DP2; 学科における経済・経営・情報3分野の体系的学修を通じて、経済社会・企業社会・情報社会の仕組みを理解し、日本経済・世界経済の現状と動向を理論的に把握することができる。

経 DP3; 経済コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、経済・金融・統計に関する専門知識を修得し、実社会で、それらを基礎に現実の問題や課題を分析し、改善策や解決方法を提示することができる。

(経営コース)経営コースでは、以下の諸能力を身につけた人の卒業を認定します。

営 DP1; 全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学修力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている。

営 DP2; 学科における経済・経営・情報3分野の体系的学修を通じて、経済社会・企業社会・情報社会の仕組みを理解し、経済・経営に関わる情報・データを適切な方法で収集・分析し、課題の発見や解決に取り組むことができる。

営 DP3; 経営コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、経営・会計に関する専門知識を修得し、実社会で適用可能な経営管理能力、経営改善策・経営戦略の立案能力、問題解決のための実践力を身につけている。

(情報コース)情報コースでは、以下の諸能力を身につけた人の卒業を認定します。  
 情 DP1; 全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学修力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている。  
 情 DP2; 学科における経済・経営・情報3分野の体系的学修を通じて、現代の高度情報化社会の仕組みを理解し、情報化社会で生きていくために必要な経済・経営・情報のリテラシーを身につけている。  
 情 DP3; 情報コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、情報科学・情報工学に関する専門知識を修得し、高度な情報技術を駆使することによって、情報社会における課題を発見・分析し、その解決に取り組むことができる。

**【芸術文化学部日本文学科】**

日本文学科は、以下の要件を満たす学生に対して「学士(日本文学)」を授与します。  
 ・所定の期間在学し、学科の教育理念・目的に沿って設定した授業科目を履修して基準となる単位数(124単位)を修得した人  
 ・テキストの精読や実地調査と関係資料の精査をもとに、自らの見解を明確に提示した卒業論文を提出し、その審査と口頭試問に合格した人(文芸創作もこれに準じる)  
 ・豊かな人間性と高い倫理観をもち、本学科で身につけた、自ら問題を発見し解決する知恵と力をもって積極的に社会に貢献できる人

具体的には次の学修成果を達成した者に対して学士の学位を授与します。  
 (知識・技能)

- DP1; 日本語学・日本文学・中国文学・欧米文学に関する基本的な知識と研究方法を修得し、周辺領域の考え方や理論と関連付けながらそれらを活用することができる。  
 (思考力・判断力・表現力)
- DP2; 自らの力でテキストの精読や実地調査に基づく分析を行い、論理的に思考し、言語文化の探究と創造に取り組むことができる。  
 (主体性)
- DP3; 豊かな人間性と幅広い視野をもち、高度な言語運用能力を発揮して他者と議論や対話を行うことができる。

**【芸術文化学部美術学科】**

美術学科では、美術における専門家として持続的な創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の修得と卒業制作に加え、以下の学修成果を達成した学生に対して「学士(美術)」を授与します。

- (知識・技能)
- DP1; 美術に関連する基本的な素養を身につけ、専門分野の基礎的な知識や技術を修得し、感性を養いながら、それらを自己表現に積極的に活用することができる。  
 (思考力・判断力・表現力)
- DP2; 広い視野で物事を捉え、課題を発見し、その解決方法を模索した上で、表現の可能性を探究することができる。  
 (主体性)
- DP3; 美術を学んだことにより身につけた表現力や創造性を、継続的な創作活動を通して社会に発信することができる。

卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/guidance/policy.html">https://www.onomichi-u.ac.jp/guidance/policy.html</a>
------------------	---

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	尾道市立大学
設置者名	公立大学法人尾道市立大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142304/r4_financial_statements.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142304/r4_financial_statements.pdf</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142304/r4_financial_statements.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142304/r4_financial_statements.pdf</a>
財産目録	—
事業報告書	<a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142502/R4_business_report.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142502/R4_business_report.pdf</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142496/r4_audit_report.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142496/r4_audit_report.pdf</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:公立大学法人尾道市立大学令和5年度年度計画 対象年度: R5 )
公表方法: <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142298/2023_plan.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00142298/2023_plan.pdf</a>
中長期計画(名称:公立大学法人尾道市立大学第二期中期計画 対象年度: H30~R5 )
公表方法: <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00103985/hojinjoho_plan2_2023.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00103985/hojinjoho_plan2_2023.pdf</a>

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112239/2022portfolio.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112239/2022portfolio.pdf</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00111492/2022hyokahokoku.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00111492/2022hyokahokoku.pdf</a>
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済情報学部経済情報学科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112635/DPCP_eco_2023.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112635/DPCP_eco_2023.pdf</a> ）
<p>(概要)</p> <p>経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特長としています。基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、主体性をもって自ら問題を設定し解決することで、現代社会のニーズに応えられる人材、社会貢献や地域貢献ができる人材の育成を目指しています。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112635/DPCP_eco_2023.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112635/DPCP_eco_2023.pdf</a> ）
<p>(概要)</p> <p>経済情報学部では、以下の諸能力を身につけた人の卒業を認定し、「学士(経済情報)」を授与します。</p> <p>共 DP1; 専門的知識・技能と、日本語および外国語によるコミュニケーション能力とを高めることで、日本や世界の諸問題の解決に寄与することができる。</p> <p>共 DP2; 経済・経営・情報の3分野に関する専門的知見を、人間・社会・自然に関する他分野の学問的知見と組み合わせることで、高度に情報化した現代経済社会の意味を探究することができる。</p> <p>共 DP3; 経済・経営・情報の3分野に関する専門的知識および基礎的スキルを修得し、それらを活用して現代の経済社会を多面的に理解し、家庭・企業・地域等で活躍することができる。</p> <p>共 DP4; 尾道市立大学での「知と美」の学びを中心とした出会いを基礎に、人生の課題の発見・解決のため、生涯学び続けることができる。</p> <p>(経済コース)</p> <p>経済コースでは、以下の諸能力を身につけた人の卒業を認定します。</p> <p>経 DP1; 全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学修力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている。</p> <p>経 DP2; 学科における経済・経営・情報3分野の体系的学修を通じて、経済社会・企業社会・情報社会の仕組みを理解し、日本経済・世界経済の現状と動向を理論的に把握することができる。</p> <p>経 DP3; 経済コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、経済・金融・統計に関する専門知識を修得し、実社会で、それらを基礎に現実の問題や課題を分析し、改善策や解決方法を提示することができる。</p> <p>(経営コース)</p> <p>経営コースでは、以下の諸能力を身につけた人の卒業を認定します。</p> <p>営 DP1; 全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学修力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている。</p> <p>営 DP2; 学科における経済・経営・情報3分野の体系的学修を通じて、経済社会・企業社会・情報社会の仕組みを理解し、経済・経営に関わる情報・データを適切な方法で収集・分析し、課題の発見や解決に取り組むことができる。</p> <p>営 DP3; 経営コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、経営・会計に関する専門知識を修得し、実社会で適用可能な経営管理能力、経営改善策・経営戦略の立案能力、問題解決のための実践力を身につけている。</p> <p>(情報コース)</p> <p>情報コースでは、以下の諸能力を身につけた人の卒業を認定します。</p> <p>情 DP1; 全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学修力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている。</p>

情 DP2; 学科における経済・経営・情報3分野の体系的学修を通じて、現代の高度情報化社会の仕組みを理解し、情報化社会で生きていくために必要な経済・経営・情報のリテラシーを身につけている。

情 DP3; 情報コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、情報科学・情報工学に関する専門知識を修得し、高度な情報技術を駆使することによって、情報社会における課題を発見・分析し、その解決に取り組むことができる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：[https://www.onomichi-u.ac.jp/\\_files/00112635/DPCP\\_eco\\_2023.pdf](https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112635/DPCP_eco_2023.pdf)）

（概要）

経済情報学部では、教養教育等で育まれた多様な価値・文化に対する深い理解を基礎にして、経済・経営・情報の3分野にまたがる基礎的知識・技能を養うとともに、経済・経営・情報の各コースごとに、より高度の知識・技能の修得をはかることができるように体系的に専門教育課程を編成します。

（経済コース）

経済コースでは、以下の方針に基づいてカリキュラム(教育課程)を編成しています。

1. スタンダードな経済学の基盤となる専門基礎科目や共通専門科目を充実させ、それらの知見を体系的に身につけることができるカリキュラムを編成します。[経 DP1][経 DP2]
2. 経済・経営・情報の3分野の基本的な知識と複眼的な発想力を養成するために、他コースの専門科目を併せて履修することができるカリキュラムを編成します。[経 DP2]
3. 主要専門科目を中心に、生活に関わる諸問題を経済学的に把握・分析する思考力を持ち、統計の理論や技法を理解し、金融リテラシーを身につけた学生を養成することができるカリキュラムを編成します。[経 DP2][経 DP3]
4. 経済分野の知識の活用能力、探究心、問題解決力、異世代・異文化とのコミュニケーション能力などの諸能力を養成するために、専門演習や特別演習といった実践的科目を配置し、少人数授業を実施します。[経 DP2][経 DP3]
5. 経済制度や経済政策のもたらす結果を評価し、制度設計や経済政策を立案する能力を養成するための卒業研究を奨励し、個別に論文指導を行います。[経 DP3]

（経営コース）

経営コースでは、以下の方針に基づいてカリキュラム(教育課程)を編成しています。

1. 学際的な視点を育成するために、経営分野だけでなく、経済や情報科学分野の専門基礎科目や共通専門科目を履修することができるカリキュラムを編成します。[営 DP1][営 DP2]
2. 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶことができるように、経営学や会計学の主要専門科目を中心としたカリキュラムを編成します。[営 DP2]
3. 経済社会及び企業活動において必須となる諸能力として、経営分野の知識の活用能力、探究心、問題解決力、コミュニケーション能力などを養成するために、専門演習や特別演習といった実践的科目を配置し、少人数授業を実施します。[営 DP2][営 DP3]
4. 地域に密着した経営問題をテーマとする卒業研究を奨励し、個別に論文指導を行います。[営 DP3]

（情報コース）

情報コースでは、以下の方針に基づいてカリキュラム(教育課程)を編成しています。

1. 人間の営みにおいて情報技術を効果的に活用できる能力を身につけられるようにするために、情報系の科目を中心としつつ、専門基礎科目や共通専門科目を通じて経済学、経営学の基本的な内容についても学修することができるカリキュラムを編成します。[情 DP1][情 DP2]
2. 情報システムを設計・開発する能力を育成するために、オブジェクト指向プログラミング言語などを修得することができる主要専門科目を配置します。[情 DP2]
3. 意思決定において有益な指針を与えられる能力を育成するために、表計算ソフトなどによりデータ分析や経済・経営のシミュレーションを行う主要専門科目を配置します。[情 DP2][情 DP3]
4. 教員から学ぶだけでなく、自律的に学修する場と、学生間で共に学び合う機会を提供するために、専門演習や特別演習といった演習科目のみならず、専門基礎科目および主要専門科目に複数の実習科目を配置します。[情 DP3]

5. 情報システムや情報ネットワークの構築をはじめ、それらの活用をテーマにした卒業研究を奨励し、個別に論文指導を行います。[情 DP3]
入学者の受入れに関する方針（公表方法： <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112666/AP_eco_2023.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112666/AP_eco_2023.pdf</a> ）
<p>(概要)</p> <p>教育の理念・目的と求める学生像</p> <p>経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特長としています。基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、主体性をもって自ら問題を設定し解決することで、現代社会のニーズに応えられる人材、社会貢献や地域貢献ができる人材の育成を目指しています。</p> <p>このような教育理念・目的に基づき、経済情報学科は次のような人を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の経済現象に関する基礎的な考え方や理論を理解し、各種資料や経済統計を活用して実際の経済を分析し、経済問題を世界的観点から考えて責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人</li> <li>・経済社会を支える企業活動の現実を直視し、企業経営に関する理論や分析手法を幅広く学んだうえで、その成果を組織の仕組みの改善に活かしたい人</li> <li>・現代社会の基盤となっている情報システムやネットワークの基本原則を学び、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に意欲のある人</li> </ul> <p>入学後の学びに必要な能力や適性等</p> <p>経済情報学科の教育課程に適応するために必要な入学時の能力や適性等は、以下の通りです。</p> <p>(知識・技能)</p> <p>①人間・社会・自然に対する深い理解、経済・経営・情報 3 分野の基礎的な知識の修得につながる「高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語の基礎的な知識・技能」</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>②問題分析力・解決力・情報収集力やコミュニケーション力につながる</p> <p>②-a.「高等学校等で学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語の基礎的な知識・技能をふまえた思考力・判断力」</p> <p>②-b.「数学的思考力」または「英語の読解力と表現力」</p> <p>②-c.「専門分野(経済・経営・情報)に関する文章の読解力と自らの考えを論理的にまとめる表現力」</p> <p>(主体性・多様性・協働性)</p> <p>③実社会における実践や問題解決力につながる「責任ある選択・意思決定、組織の仕組みの改善、社会問題の解決や日常生活の利便性の向上に向けて行動しようとする意欲」</p>

学部等名 芸術文化学部日本文学科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112642/DPCP_literature2023.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112642/DPCP_literature2023.pdf</a> ）
<p>(概要)</p> <p>日本文学科では、豊かな人間性と幅広い視野、高度な言語運用能力をもとに諸共同体のリーダー・教育者・創作者等として主体的に社会に貢献できる人の育成を目指しています。自らの力でテキストの精読や実地調査に基づく分析を行い、他者との議論や対話を通して言語文化の探究と創造に取り組む活動に重点をおいた教育を展開します。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112642/DPCP_literature2023.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112642/DPCP_literature2023.pdf</a> ）

<p>(概要)</p> <p>日本文学科は、以下の要件を満たす学生に対して「学士（日本文学）」を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・所定の期間在学し、学科の教育理念・目的に沿って設定した授業科目を履修して基準となる単位数（124単位）を修得した人</li> <li>・テキストの精読や実地調査と関係資料の精査をもとに、自らの見解を明確に提示した卒業論文を提出し、その審査と口頭試問に合格した人（文芸創作もこれに準じる）</li> <li>・豊かな人間性と高い倫理観をもち、本学科で身につけた、自ら問題を発見し解決する知恵と力をもって積極的に社会に貢献できる人</li> </ul> <p>具体的には次の学修成果を達成した者に対して学士の学位を授与します。</p> <p>(知識・技能)</p> <p>DP1; 日本語学・日本文学・中国文学・欧米文学に関する基本的な知識と研究方法を修得し、周辺領域の考え方や理論と関連付けながらそれらを活用することができる。</p> <p>(思考力・判断力・表現力)</p> <p>DP2; 自らの力でテキストの精読や実地調査に基づく分析を行い、論理的に思考し、言語文化の探究と創造に取り組むことができる。</p> <p>(主体性)</p> <p>DP3; 豊かな人間性と幅広い視野をもち、高度な言語運用能力を発揮して他者と議論や対話を行うことができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：<a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112642/DPCP_literature2023.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112642/DPCP_literature2023.pdf</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>学位授与の方針に掲げる学修成果を達成できるように、日本文学科では以下の方針に基づいてカリキュラム(教育課程)を編成しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語学・日本文学・中国文学・欧米文学に関する基本的な知識と研究方法を修得するために、1年次に概論や基礎演習等の必修科目を配置します。[DP1][DP2]</li> <li>2. 学修の拡充と深化をはかるために、日本語学・日本文学・中国文学・欧米文学に加え、周辺領域である、民俗学・伝承文学・文芸創作・国語教育学等を専門教育科目として、各年次に配置します。日本文学分野では、対象の全体像と大まかな流れを理解し、個別具体的な作品を主体的に読み込み、高度な専門的知識を身に付け研究への理解を深めることができるように、概論・文学史・講読・文学講義等の科目を体系的に配置します。[DP1][DP2]</li> <li>3. 周辺領域の考え方や理論と関連付けながら学びを深めるために、専門教育科目に発展的に関連・連携する、学部の特性を活かした学部共通科目、教養教育科目を各年次に配置します。[DP1][DP2]</li> <li>4. 自らの力でテキストの精読や実地調査に基づく分析を行い、論理的に思考し、言語文化の探究と創造に取り組むために、2年次以降の選択科目として、議論や対話を重視した専門演習を配置します。[DP2][DP3]</li> <li>5. 言語文化の探究と創造の成果として、卒業論文・卒業制作を課します。[DP1][DP2][DP3]</li> <li>6. 豊かな人間性と幅広い視野をもって、高度な言語運用能力を発揮し、他者と議論や対話をおこなうための、少人数双方向教育を実施します。[DP2][DP3]</li> </ol>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：<a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112673/AP_literature_2023.pdf">https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112673/AP_literature_2023.pdf</a>）</p>
<p>(概要)</p> <p>教育の理念・目的と求める学生像</p> <p>日本文学科では、豊かな人間性と幅広い視野、高度な言語運用能力をもとに諸共同体のリーダー・教育者・創作者等として主体的に社会に貢献できる人の育成を目指しています。自らの力でテキストの精読や実地調査に基づく分析を行い、他者との議論や対話を通して言語文化の探究と創造に取り組む活動に重点をおいた教育を展開します。</p> <p>このような教育理念・目的に基づき、日本文学科は次のような人を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校等までの教育課程において確かな国語の力を身につけた人</li> <li>・問いをもって対象に向き合い、論理的に思考し判断する力を鍛えてきた人</li> <li>・知的探究心をもって日本語・日本文学を深く研究していく意欲がある人</li> </ul>

- ・文学作品のもつ多様な価値観を柔軟に受け止められる人
- ・読解力・表現力・対話力を活用して協働的に社会に参画する意欲がある人

入学後の学びに必要な能力や適性等

日本文学科の教育課程に適応するために必要な入学時の能力や適性等は以下の通りです。

(知識・技能)

①日本語・日本文学・中国文学・欧米文学に関する基本的な知識と研究方法の修得のために、高等学校等までの教育課程において確かな国語の力を身につける必要があります。

②周辺領域の考え方や理論と関連付けながら、日本語と日本文学を中心とする学修の拡充と深化を図るために、高等学校等までに学ぶ幅広い教科・科目の知識と技能が必要です。

(思考力・判断力・表現力)

③テキストの精読や実地調査を行い、論点を定めた分析や表現の探究に取り組むために、高等学校等までの学習において、論理的・創造的に考える力や他者との関わりの中で伝え合う力、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力が必要です。

(主体性・多様性・協働性)

④著名な文学作品を読み、作品のもつ多様な価値観を柔軟に受け止める力が必要です。

⑤日本語・日本文学を深く研究していくためにことばや文学、文化への知的探究心が必要です。

⑥他者との議論や対話を通して協働的に学ぶ力が必要です。

学部等名 芸術文化学部美術学科

教育研究上の目的 (公表方法 : [https://www.onomichi-u.ac.jp/\\_files/00112659/DPCP\\_art\\_2023.pdf](https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112659/DPCP_art_2023.pdf) )

(概要)

美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。

個々の学生の美に寄せる豊かな感性を尊重しながら、実技教育を通して専門的な知識・技術を獲得させること、また、学生が相互に切磋琢磨する機会を通して、芸術文化に関する幅広い視野を身につけさせることを目的とします。その上で、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。

卒業の認定に関する方針 (公表方法 : [https://www.onomichi-u.ac.jp/\\_files/00112659/DPCP\\_art\\_2023.pdf](https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112659/DPCP_art_2023.pdf) )

(概要)

美術学科では、美術における専門家として持続的な創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の修得と卒業制作に加え、以下の学修成果を達成した学生に対して「学士(美術)」を授与します。

(知識・技能)

DP1; 美術に関連する基本的な素養を身につけ、専門分野の基礎的な知識や技術を修得し、感性を養いながら、それらを自己表現に積極的に活用することができる。

(思考力・判断力・表現力)

DP2; 広い視野で物事を捉え、課題を発見し、その解決方法を模索した上で、表現の可能性を探究することができる。

(主体性)

DP3; 美術を学んだことにより身につけた表現力や創造性を、継続的な創作活動を通して社会に発信することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : [https://www.onomichi-u.ac.jp/\\_files/00112659/DPCP\\_art\\_2023.pdf](https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112659/DPCP_art_2023.pdf) )

(概要)

美術学科では、まず自己の資質・方向性を探るべく、幅広く各分野の基礎を体験します。

次に各コースにおいては、基礎から応用への展開を軸として課題を組みます。そして最終的には、美術における専門家として主体的に制作できるようになることを方針として教育課程を編成し

- ます。
1. 基礎的な造形力を育成し、学生が自身に合った表現の方向性を探ることができるように、日本画・油画・デザインの3つのコース課題すべてに取り組む必修の基礎造形科目を1年次に配置します。[DP1]
  2. 1年次に学んだ基礎的な造形力をふまえて、それぞれの分野の知識や技術の修得を図るために、2年次からは、日本画・油画・デザイン3つのコース別に専門実習科目を配置します。[DP1][DP2]
  3. 各コースの専門実習では、表現の可能性を探究するための、与えられた課題に即した制作と自らテーマを設定する自由制作を課します。また、社会に向けて自身の創作を発信する力を身につけるために、プレゼンテーションやディスカッションの機会を多く設定します。[DP2][DP3]
  4. 4年次には、専門的な知識と技術の集大成としての卒業制作を課し、また、社会に向けて自身の創作を発信する卒業制作展の場を設けます。[DP2][DP3]
  5. 本学の学生として身につけてほしい教養を学ぶための教養教育科目や関連科目、文化や芸術に関する基本的な素養を身につけるための学部共通科目、美や芸術の本質、美術の考え方や歴史、関連分野の技術を修得する専門基幹科目、を配置します。[DP1][DP2]

入学者の受入れに関する方針（公表方法：[https://www.onomichi-u.ac.jp/\\_files/00112680/AP\\_art\\_2023.pdf](https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00112680/AP_art_2023.pdf)）

（概要）  
 教育の理念・目的と求める学生像  
 美術学科の教育理念は、美術における専門家として持続的に創作活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材を育成することにあります。  
 個々の学生の美に寄せる豊かな感性を尊重しながら、実技教育を通して専門的な知識・技術を獲得させること、また、学生が相互に切磋琢磨する機会を通して、芸術文化に関する幅広い視野を身につけさせることを目的とします。その上で、作家やデザイナーとして、あるいは美術教員や学芸員等として、持続的に美術に携わることのできる人材の育成を目指しています。  
 このような教育理念・目的に基づき、高等学校までの学習を通して培った理解力と思考力、美術の表現力を前提とした上で、美術学科は次のような人を求めています。

- ・豊かな発想や色感を持ち、構成力、描写力などの基礎的な造形力を持つ人
- ・本学で学修を進めるために必要な基本的な知識、理解力を持つ人
- ・自らの問題意識にしたがって考え、客観的な視点を持つ意欲のある人
- ・自らの感覚や思考を、美術表現や言葉によって他者に伝える意欲のある人
- ・主体性を持って学ぶ姿勢を持ち、多様な人々と協働して学ぶ意欲のある人
- ・将来的なビジョンを持ち、自らの創造性を高める意欲のある人

入学後の学びに必要な能力や適性等  
 美術学科の教育課程に適応するために必要な入学時の能力や適性等は以下の通りです。

（知識・技能）

- ①持続的な創作活動に必要な造形の知識・技術を修得するために、高等学校までに基礎的なデッサンや彩色の表現力を身につける必要があります。
- ②造形の知識・技術を活用する上で必要となる様々な考え方を修得するために、高等学校までに学ぶ幅広い教科・科目の知識と技能が必要です。

（思考力・判断力・表現力）

- ③自己表現の方向性を探究するために、高等学校までに自身の表現や適性などについて考え、伝える力を身につける必要があります。

（主体性・多様性・協働性）

- ④明確な目標を持ちながら、自らの創造性を高めるために、主体性を持って学ぶ態度、多様な人々と協働して学ぶ態度が必要です。

## ②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：  
<https://www.onomichi-u.ac.jp/daigakugaiyou/about/system.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）								
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計	
—	3人	—					3人	
経済情報	—	12人	10人	3人	—	—	25人	
芸術文化	—	17人	7人	5人	—	3人	32人	
その他	—	—	1人	2人	—	—	3人	
b. 教員数（兼務者）								
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計	
—			128人				128人	
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)			公表方法： <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_teacher/teacher/index.html">https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_teacher/teacher/index.html</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）								

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済情報	200人	212人	106%	800人	948人	119%	人	人
芸術文化	100人	103人	103%	400人	451人	113%	人	3人
合計	300人	315人	105%	1,200人	1,399人	117%	人	3人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済情報	209人 (100%)	2人 (1%)	175人 (84%)	32人 (15%)
芸術文化	104人 (100%)	9人 (9%)	69人 (66%)	26人 (25%)
合計	313人 (100%)	11人 (4%)	244人 (78%)	58人 (18%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他

	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
●前年 10 月頃：学内の教務担当の委員会で次年度のシラバスに関する方針を検討、決定する。
●前年 11 月～1 月頃：授業担当教員にシラバスの作成を依頼、作成する。
●1 月～3 月上旬：シラバスの内容を事務局が中心となり確認し、必要に応じて修正する。
●3 月下旬頃：学内、学外にシラバスを公開する。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
シラバスの「学生に対する評価」において、あらかじめ学生に授業科目の客観的な評価基準を示している。授業担当教員は「学生に対する評価」に基づき、厳格かつ適正に単位の授与を行っている。単位の授与について疑義のある学生は「成績不服申し立て制度」により自己の意見を申し出ることが出来る。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済情報	経済情報	128 単位	有・無	単位
芸術文化	日本文学	124 単位	有・無	単位
	美術	124 単位	有・無	単位
G P A の活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： <a href="https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_enviromental.html">https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_enviromental.html</a>
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経済情報	経済情報	535,800 円	尾道市内 282,000 円 尾道市外 423,000 円	円	
芸術文化	日本文学			円	
	美術			円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要)
【全学科共通】
●指導教員(チューター)を中心にして経済情報学科では 10 人程度、日本文学科と美術学科では 5 人程度のグループをつくり、グループ担当の教員が学生の修学上の問題や経済的な問題、その他

学生生活上の様々な問題について学生の相談に応じ、学生が心身ともに健康で有意義な学生生活を送るために設けられている制度を設けている。

具体的には次の項目についての相談・対応を行っています。

- ・講義等履修計画の指導に対する対応
  - ・学習方法の指導・助言に対する対応
  - ・学生生活上の急病や事故などに関する対応
  - ・人間関係や学生生活など心身の健康にかかわる問題の相談や対応
  - ・経済的問題や、奨学生の指導に関する対応
  - ・学生の進路相談に関する対応
  - ・その他学生生活全般に関する対応
- 経済的理由や風水害等の災害を受けたことなどにより、授業料の納付が困難な学業成績が良好な学生に対して、学修意欲の更なる向上を目的として、給付型の奨学金を設けている。
- 経済情報学科と日本文学科では、各教員が必ず研究室に在室し、学生の皆さんの質問や相談等に応じる時間、すなわち「オフィスアワー」の時間を設けている。美術学科の教員は随時対応している。
- 修学活動助成制度を設けて、学生の学外研修や学会発表、展覧会視察等への助成を行っている。

#### 【経済情報学科】

- 1年次の必修科目である基礎演習 I において指導教員(チューター)が大学生として必要なアカデミックスキルを伝授している。
- 1年次より定期的に自己の振り返りとして、「自己評価カルテ(マイステップ)」の作成を義務付けている。指導教員が内容を確認して、コメントをすることで、学生にフィードバックしている。
- 3年次からの「専門演習(ゼミ)」では指導教員のもと、卒業研究の準備、作成に取り組んでいる。
- 修学上問題のある学生については、学部長、指導教員を中心に個別面談を実施し、該当学生の状況を把握している。

#### 【日本文学科】

- きめ細かくパフォーマンスを評価するため各種ルーブリックを充実させ、活用している。
- 日文ポートフォリオへの記録を義務付け、データを蓄積している。また、日文ポートフォリオを活用して、チューター、ゼミ担当による面談を各期初めに行っている。
- チューター制度に加え、学年担当教員(各学年3名)を決め、その中から、問題を抱えている学生の課題を整理し、対応を統括する担当者を設けている。

#### 【美術学科】

- 1年次には基礎実技を重視して基本的な造形能力を養うため、全員が共通課題として、デッサン基礎実習、彫刻実習と3つのコース課題を体験させている。
- 2年次からは3つのコースに分かれ、1年次で学んだ基礎力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の習得に力を注いでいる。
- 個々の学生を適切に把握するため、巡回指導や面談を行い、コース会議、学科会議などで情報を共有している。

### b. 進路選択に係る支援に関する取組

#### (概要)

- 授業科目として、1年生向け「キャリア形成入門」と、2・3年生向け「キャリア形成演習」「インターンシップ」を開講している。「キャリア形成入門」では、卒業後の社会的自立に向けて、自分らしい生き方や働き方を考え、主体的に取り組む姿勢を身につける。「キャリア形成演習」では、実際の企業での経営課題にチームで取り組み、プレゼンテーション資料を作成し発表することで、就業力や社会人基礎力を身につける。「インターンシップ」では、実社会での就業体験が実りあるものとなるよう、事前学習・事後学習を通じて、職業観・就業意識を養い、適切な職業選択に役立てることができるよう取り組んでいる。
- キャリアサポートセンターでは、求人情報、企業情報、企業説明会の情報など就職活動に関する情報や、進学や資格取得など進路全般に関する情報を提供しています。学生の進路相談に応じるスタッフが常駐し、進路相談の他、履歴書やエントリーシートの添削、面接指導など進路に関することなら何でも相談に応じています。加えて、専門のキャリアカウンセラーを配置し、いつでも学生が利用

できる体制を整えている。

- キャリア開発委員会では、定期的に就職ガイダンス、セミナーを開催し、就職に対する意識の向上を図ることで、学生のスムーズな就職活動を支援している。また、業界研究会(合同企業説明会)や地元企業紹介ガイダンス等を開催し、学生の就職活動がより具体的になるよう支援をしている。
- 全学年を対象に課外講座を開講することにより、学生の進路選択、就職活動に向けた実力を養成している(例:公務員受験対策講座、簿記資格対策講座、MOS 資格取得講座など)。
- 在学中に国家資格などの資格を取得した学生に対し奨励金を給付する「資格取得奨励金給付制度」を設けている。

#### c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

- 医務室では、応急処置、健康診断、健康相談や生活上の相談、学生相談、大学生生活に関する保険のサポートを行っている。
- 臨床心理士によるカウンセリングを週3回行っている。臨床心理士、教員、教務係等を中心に、適宜カンファレンスを実施し、情報を共有し、問題解決に取り組んでいる。
- 修学上の配慮が必要な学生に対しては、障害学生修学支援委員会が中心となり、必要な配慮を行っている。
- 担当の教職員が相談窓口となり、公正・公平な立場でハラスメントに関する相談を受け付けている。また、定期的に学生・教職員向けの研修会を実施し、知識の醸成、意識付けを行っている。

#### ⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

[https://www.onomichi-u.ac.jp/research/reserch\\_report/index.html](https://www.onomichi-u.ac.jp/research/reserch_report/index.html)

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	尾道市立大学
設置者名	公立大学法人尾道市立大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		170人	164人	180人
内 訳	第Ⅰ区分	97人	99人	
	第Ⅱ区分	43人	41人	
	第Ⅲ区分	30人	24人	
家計急変による支援対象者（年間）				-
合計（年間）				180人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	3人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	1人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	5人	人	人
計	9人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	3人	人	人
GPA等が下位4分の1	31人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	34人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。